

## しなやか先端技術企業

環境にやさしいテクノロジーで未来を創造

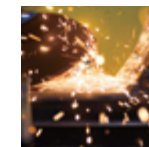
ワイエイシ株式会社

東証1部 証券コード:6298

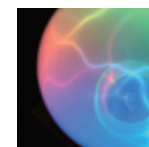
### 事業フィールド



ハードディスク



精密熱処理



液晶



工業用計器・制御通信



半導体



精密切断



太陽電池



レーザープロセス



クリーニング

第44期

ビジネスレポート

平成27年4月1日～平成28年3月31日



代表取締役社長  
百瀬 武文

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに『第44期ビジネスレポート』をお届けいたします。

当期の業績は、売上高につきましては過去最高となりました。営業利益につきましては前年比微増となりましたが、為替等の影響により、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前年実績を下回る結果となりました。第45期につきましては通期計画を達成すべく、営業活動の強化を図るとともに、コストの削減を進めてまいります。

また、当期の期末配当金は1株につき10円とし、中間配当金の10円とあわせて年間20円とさせていただきます。当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要なテーマのひとつと位置づけ、業績や事業計画などを総合的に勘案し、安定的な配当を継続することを基本方針としております。引き続き競争力の強化に努め、株主の皆様への利益

の拡大に努めてまいります。

当社グループは、「より多く社会に貢献する」を目的・使命として、「規模の拡大」・「高収益体質の確立」を事業活動の指針に掲げ、経営者と社員が一丸となって挑戦し続けております。当社はM&Aによる規模の拡大を積極的に推進しておりますが、株式会社ワイエイシイデンコー、大倉電気株式会社をはじめ、ここ数年内にグループ会社化した各社が当期の業績に大きく貢献しております。今後もM&A・アライアンスに積極的に取り組み、更なる経営基盤の拡充を進めてまいります。

これからも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年6月

さあ今日も、  
ときめきと感動の日々であれ！

### 創業理念

- 1.技術集約会社
- 2.旺盛なバイタリティー
- 3.リスクに果敢にチャレンジする
- 4.少数精鋭主義

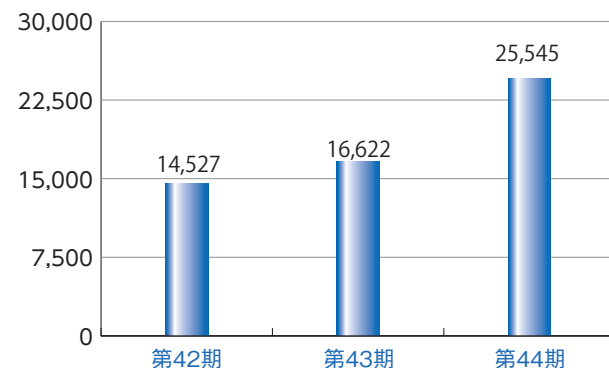
### 成長理念

- 1.社員の豊かさを追求する(経済的、精神的)
- 2.国・地方自治体により多く納税する
- 3.新製品の創造・提供
- 4.地域社会への貢献
- 5.株主を優遇する
- 6.環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

	第42期	第43期	第44期
売上高	14,527百万円	16,622百万円	25,545百万円
経常利益	546百万円	966百万円	546百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	2,229百万円	639百万円	28百万円
1株当たり純資産額	1,459.87円	1,521.09円	1,482.87円
自己資本比率	57.6%	54.9%	38.1%
配当金	20円	20円	20円

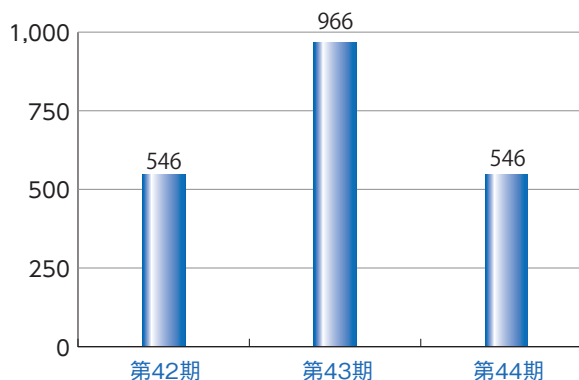
売上高

(単位:百万円)



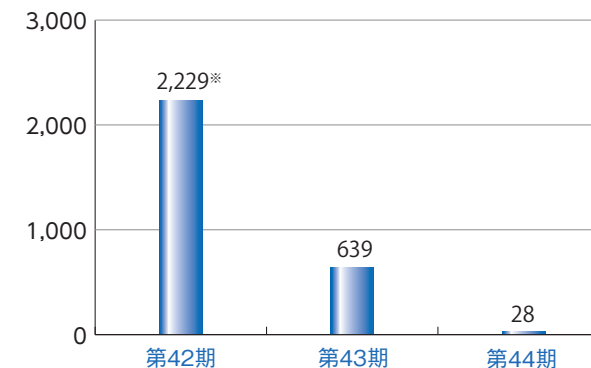
経常利益

(単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

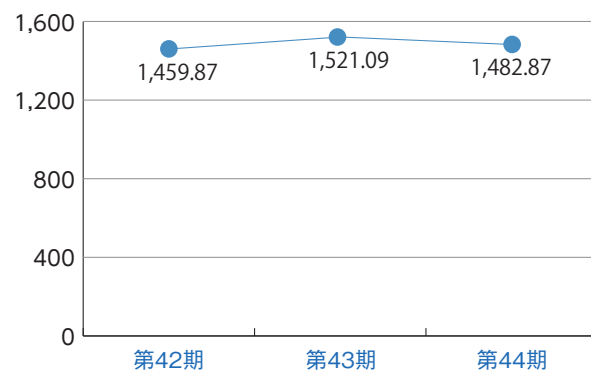
(単位:百万円)



\*第42期は当社グループ拡大に伴う負ののれん発生益1,862百万円を計上しております。

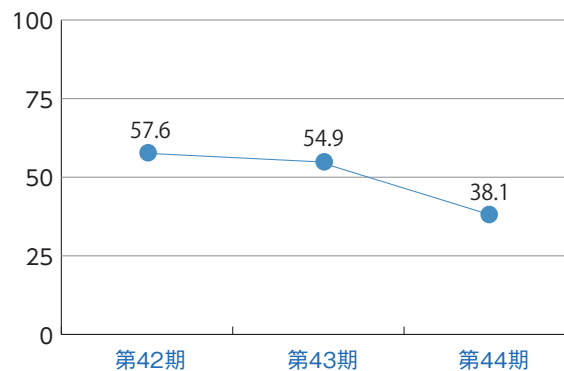
1株当たり純資産額

(単位:円)



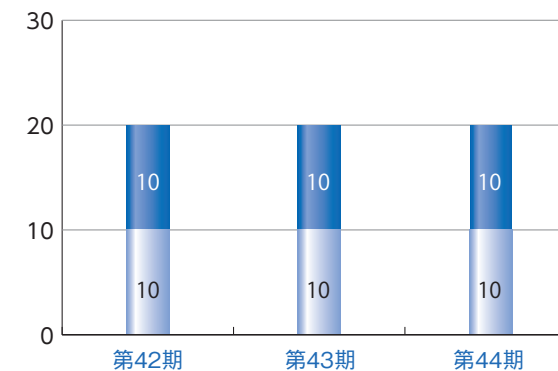
自己資本比率

(単位:%)



配当金

■ 中間 ■ 通期 (単位:円)



## 事業概況

当連結会計年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日)における世界経済は、雇用回復を背景に緩やかな景気拡大が見られた米国並びに、量的緩和の継続を背景に緩やかな拡大を続けた欧州に支えられ、総じて回復基調で推移しましたが、後半からは、中国における減速感の強まりや、欧州・中東における地政学的リスクの高まり、原油価格の著しい下落等が見られ、不安定な基調で推移しました。

日本経済においては、個人消費が低調に推移する中、年初から円高・株安が急速に進み、先行き不透明な状況で推移しました。

このような経済状況のもとで当社グループは、刻々と変

化する顧客ニーズを捉えた装置の開発と市場化に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高255億45百万円(前連結会計年度比53.7%増)、営業利益8億7百万円(同2.6%増)、経常利益5億46百万円(同43.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益28百万円(同95.6%減)となりました。

## 経営の現状と次期見通し

今後の見通しにつきましては、世界経済に減速の懸念が見られるものの、国内では雇用改善に伴う個人消費の増加や、訪日外国人の

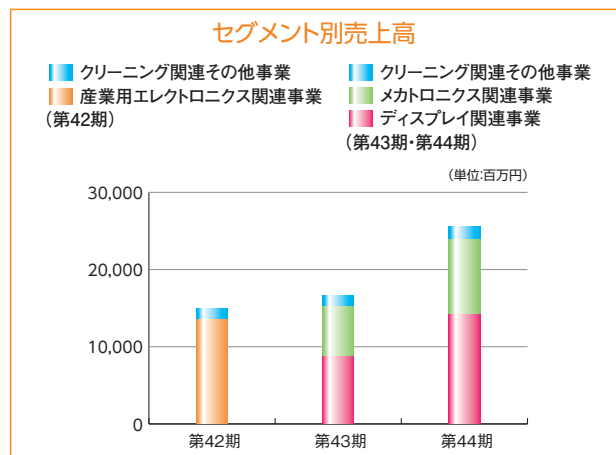
増加等により緩やかながらも景気の回復が続くと予想されます。

このような事業環境のもと、当社グループにおきましては「規模拡大と高収益体質の構築」の実現をめざしてまいります。近年のM&Aにより拡大した当社グループの連携強化によりシナジーの拡大を図り、グループ一丸となって業績の向上に努めてまいります。

次期の業績は、連結ベースで売上高300億円、営業利益15億円、経常利益13億50百万円、親会社株主に帰属する当期純利益8億90百万円を予想しております。

## セグメント別の状況

当連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前連結会計年度対比については、前年度実績を変更後のセグメント区分に組み替えて比較しております。



注：当連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、第43期につきましては、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で掲載しております。

### ディスプレイ関連事業

スマートフォンやタブレット端末向けのパネル用熱処理(アニーリング)装置が牽引し、売上高は堅調に推移しましたが、パネル用エッチング装置において、一部案件が利益を圧迫しました。

これらの結果、ディスプレイ関連事業の売上高は141億74百万円(前連結会計年度比61.1%増)となり、セグメント利益は3億4百万円(同45.3%減)となりました。

### メカトロニクス関連事業

テストハンドラー装置の大口需要の取り込み、また、再生エネルギー活用に伴う電力会社向けの設備投資需要にも支えられ、業績は好調に推移しました。

これらの結果、メカトロニクス関連事業の売上高は97億2百万円(前連結会計年度比51.1%増)となり、セグメント利益は9億24百万円(同45.6%増)となりました。

### クリーニング関連その他事業

クリーニング関連装置分野において顧客需要を確実に取り込んだほか、金型加熱装置分野が好調に推移し、業績は底堅く推移しました。

これらの結果、クリーニング関連その他事業の売上高は16億68百万円(前連結会計年度比18.6%増)となり、セグメント利益は1億94百万円(同52.2%増)となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 平成28年3月31日現在	前期 平成27年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
<b>1</b> 流動資産	26,781	19,504
固定資産	7,979	5,202
有形固定資産	5,343	4,255
無形固定資産	1,049	363
投資その他の資産	1,586	584
資産合計	34,760	24,707
<b>【負債の部】</b>		
<b>2</b> 流動負債	14,368	6,977
固定負債	6,893	3,962
負債合計	21,262	10,939
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	13,385	13,531
その他の包括利益累計額	△145	35
新株予約権	31	23
非支配株主持分	226	177
<b>3</b> 純資産合計	13,498	13,767
負債純資産合計	34,760	24,707

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 自平成27年4月1日 至平成28年3月31日	前期 自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高	25,545	16,622
売上原価	20,684	12,450
販売費及び一般管理費	4,053	3,385
営業利益	807	787
営業外収益	141	323
営業外費用	403	143
経常利益	546	966
特別利益	23	2
特別損失	26	6
税金等調整前当期純利益	543	962
法人税等	462	307
当期純利益	80	655
非支配株主に帰属する当期純利益	52	16
親会社株主に帰属する当期純利益	28	639

**4** 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期 自平成27年4月1日 至平成28年3月31日	前期 自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,715	△1,106
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,862	686
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,857	502
現金及び現金同等物に係る換算差額	△90	76
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,810	159
現金及び現金同等物の期首残高	7,966	7,806
現金及び現金同等物の期末残高	5,155	7,966

**POINT 1** 流動資産

当連結会計年度末における流動資産は、267億81百万円となり、前連結会計年度末に比べ72億76百万円増加しました。主な増加は、受取手形及び売掛金52億64百万円、仕掛品38億33百万円で、主な減少は、現金及び預金18億13百万円、有価証券9億50百万円です。

**POINT 2** 流動負債

当連結会計年度末における流動負債は、143億68百万円となり、前連結会計年度末に比べ73億91百万円増加しました。主な増加は、短期借入金等36億70百万円、支払手形及び買掛金34億80百万円で、主な減少は、1年内償還予定の社債4億円です。

**POINT 3** 純資産

当連結会計年度末における純資産は、134億98百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億69百万円減少しました。その結果、自己資本比率は38.1%となり、1株当たり純資産は1,482円87銭となりました。

**POINT 4** 連結キャッシュ・フロー

当連結会計年度における営業活動による資金は、前期に引き続いて47億15百万円の減少(前連結会計年度は11億6百万円の減少)となりました。

これは、主に、

■プラス要因

(1) 今期売上のための仕込みを含む「仕入債務の増加」29億79百万円

■マイナス要因

(1) 第4四半期での「売上債権の増加」44億29百万円  
(2) 「たな卸資産の増加」39億99百万円の影響によるものです。

また、新規グループ会社への貸付け及び返済などにより、投資活動による資金で38億62百万円減少、財務活動による資金で58億57百万円増加した結果、当期末の現金及び同等物は51億55百万円に減少しました。

## Topics 1

### 有機ELディスプレイと当社グループの関わり

有機ELディスプレイが視野角広さ、低消費電力に加え、革新的となる折り畳み式ディスプレイが実現できるデバイスとして次世代スマートフォンへの採用が見込まれています。当社では2000年から長年に渡り、有機ELディスプレイの製造用プロセス装置を出荷しており、現在のラインナップはドライエッチング装置、ウエットエッチング装置とアニーリング装置です。

今後は、折り畳み式ディスプレイ向けのフレキシブル有機ELが多くなり、当社の高度なアニーリング技術やエッチング技術が必要とされます。低消費電力化のための低周波数駆動のハイブリット回路(LTPO・LTFS)は酸化半導体のアニーリング技術が追加され、また高精度化のために重要な蒸着用マスク形成等には精密なエッチング技術も追加されます。

当社の技術は有機ELディスプレイの製造プロセスを全力で応援していきます。



ドライエッチング装置



ウエットエッチング装置



アニーリング装置

## Topics 2

### 新製品情報

#### 多層セラミックパッケージ切断装置

IoTデバイス、スマートフォン、タブレット等によるインターネットのデータ量が急増しており、無線通信基地局では大幅な通信容量アップが進んでおります。この高速大容量データ通信には、水晶デバイス、SAWフィルタ、高周波デバイスといった小さな電子デバイスを組み込んだ多層セラミックパッケージが使われております。

多層セラミックパッケージは、高温焼結された板厚5ミリ程度の硬いアルミナセラミックを当社のDAS110型切断機を用いて切断して製造されております。DAS110型切断機の特徴は、高剛性筐体に高出力スピンドルを搭載し、薄いブレードで超硬厚板セラミック材料の切断に対応した特徴を備えております。特にセラミックパッケージの熱収縮による寸法歪みに対応した特殊自動アライメント機能等を有しております。また、専用ソフトウェアで制御した高い生産性により、多くのお客様にご利用頂いております。

当社は、自動車、医療、パワー半導体に広がっていくセラミックパッケージ製造を切断技術で支えています。



出典：日本セラミックス協会セラミックス博物館



DAS110型切断機

## Topics 3

### ワイエイシイオリンピックの開催

2020年の東京オリンピック開催の機運に乗って、18の当社事業部及びグループ会社を2つのグループに分け、東京オリンピック開催年までの業績の増加率を競う企業オリンピック大会(ワイエイシイオリンピック)を展開いたします。

グループ内の各社・各事業部が連携しつつ競い合うことで、業績の向上を図り、中期計画の達成を目指します。

### 持株会社体制への移行の検討を開始

グループ経営を高度化させ、競争力、収益力を高め、積極的なM&Aによる規模の拡大を図るため、平成29年4月から持株会社体制に移行する方向で検討を開始いたしました。

具体的な内容につきましては、今後検討を進め、決定次第お知らせいたします。

会社概要

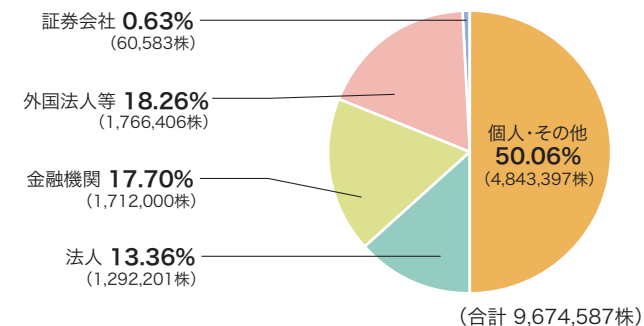
商号 ワイエシイ株式会社  
 英文表示 Y.A.C.CO.,LTD.  
 本社 東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号  
 設立 昭和48年5月11日  
 資本金 2,756百万円  
 従業員数 197名 (連結747名)  
 (出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず)

株式の状況

会社が発行する株式の総数 34,388,000株  
 発行済株式の総数 9,674,587株  
 当期末現在の株主数 4,066名  
 個人・その他※ 3,924名 4,843,397株  
 法人 36名 1,292,201株  
 金融機関 25名 1,712,000株  
 証券会社 29名 60,583株  
 外国法人等 52名 1,766,406株

※自己株式を含みます。

所有株式数分布状況



役員・執行役員 (平成28年6月29日現在)

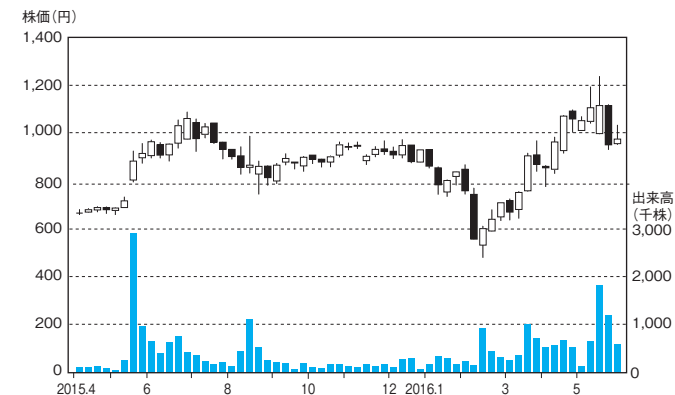
代表取締役社長 百瀬 武文  
 常務取締役執行役員 伊藤 利彦  
 取締役執行役員 佐藤 康男  
 取締役執行役員 大福 芳弘  
 取締役執行役員 副島 幸雄  
 取締役執行役員 寺本 和政  
 取締役 石田 祥二 ※社外取締役  
 取締役 木船 常康 ※社外取締役  
 常勤監査役 古橋 博  
 監査役 高田 直規 ※社外監査役  
 監査役 飯田 哲郎 ※社外監査役  
 執行役員 村野 恒利  
 執行役員 坂本 克幸  
 執行役員 吉田 和彦

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社モトタケ	1,220	12.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	533	5.51
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG(IASDEC/FIM LUXEMBOURG FUNDS) (LOTS ASSETS)	450	4.65
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	416	4.30
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	356	3.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	354	3.66
百瀬 武文	280	2.89
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	151	1.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	89	0.92
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	86	0.89

※当社は、自己株式を745,801株保有しておりますが、大株主からは除外しております。

株価・株式売買高の推移(週足)



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
期末配当金受領株主確定日	3月31日		〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
中間配当金受領株主確定日	9月30日		TEL 0120-232-7111 (通話料無料)
定時株主総会	毎年6月	上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	公 告 の 方 法	電子公告により行います
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	公告掲載URL	<a href="http://www.yac.co.jp/">http://www.yac.co.jp/</a>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### ホームページのご紹介

株主・個人投資家の方々に対しての  
当社の状況をわかりやすく伝えたコンテンツを  
提供しております。

<http://www.yac.co.jp/>

または、**ワイエイシイ** **検索** で検索ください。



# ワイエイシイ株式会社

〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10  
TEL:(042)546-1161(代表) FAX:(042)546-1107  
URL <http://www.yac.co.jp>